

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年6月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873400378		
法人名	有限会社 凜成		
事業所名	グループホーム ひだまりの家	ユニット名	1階
所在地	〒313-0106 茨城県常陸太田市下利員町1086-1		
自己評価作成日	平成28年1月19日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873400378-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年3月15日	評価機関 決済日	平成28年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>山間の静かな所にあり、納涼祭（昨年は秋祭り）では近隣の方たちに参加して頂いたり、行事等でもボランティアで来て頂くなどして地域の方々と交流している。また日頃より近所の方には季節のお花を植えてくださったりお野菜を頂くなど、入居者の方々は折々に季節を感じることができている。施設内においては一人一人に合わせた寄り添う介護を心がけ、画一的ではないアットホームな雰囲気である。ご家族の方も気軽に来られ、他の入居者さんともお話されていかれる。毎月の行事に力を入れており、また気候の良い時には近くを車で出かけたりと、のびのびとした自由な空間を提供している。また医療面において、看護師間の連携が良く毎日の充実したケアが行われている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は四季折々を身近に感じることができる、自然豊かな場所に立地している。 隣接する土地の所有者が、利用者が楽しめるようにと、事業所前の土手に季節の花をたくさん植えてくれるなど、近隣住民と良好な関係を築いている。 認知症ケア専門士でもある施設長を含め、3名の看護職員が利用者の健康管理に努めている。 職員間のコミュニケーションが良く、職員は笑顔で利用者を支援している。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に事業所の理念を唱和し、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念のほかに、「ご利用者様の気持ちを思い、寄り添う介護を行いながら、笑顔で明るい施設を目指します。」との年間理念を作成して事業所内に掲示し、職員は朝礼時に唱和して共有を図るとともに、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の納涼祭（去年は秋祭り）では近隣の方々に参加を得ており子供たちも出演者として参加して頂いた。町内のお祭りや運動会にも招待され毎年出かけている。日頃より散歩の際にお話したり（近所のかたと馴染みの仲だったり）交流もっている。	職員が地域の清掃活動に参加したり、利用者と職員で散歩時には、近隣住民や知人と会話を交わすなど、交流に努めている。 地域の夏祭りや中学校の運動会に招待されて、利用者と職員で参加するほか、中学生の職場体験の場として提供したり、事業所の秋祭りには地域住民やおやじバンド、三味線のボランティアを受け入れるなど、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で現状報告をし、その説明をしながら地域の方々に認知症への理解を求めている。また施設長が認知症サポーターの講師として地域の方々に認知症についての知識と理解を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回、行事の報告、現在の入居状況などを報告し、そこででた意見は日ごろのサービスに活かしている。去年は入居者が出て行ってしまった時の対応や、災害対策（防火水そうを設置した）、脱水（去年の猛暑で）、介護保険の改正などが話にあがった。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、町内会長、民生委員、老人会長、代表者、管理者等で2ヶ月に1回開催している。 事業所からは利用者の状況や運営状況、今後の予定等を報告するとともに、出席者からの要望や助言などを聴き、出た意見等を全職員で検討してサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に出席する市の担当者の方に入所希望の依頼や市内の現状を訊いたり、介護保険に関する質問をして関係を築いている。また市が主催する研修会にも意欲的に参加し見聞を広めるようにしている。	市の高齢福祉課に施設長や管理者が随時訪問し、介護保険に関する助言や要介護更新申請の情報を得るなど、日頃から協力関係を築いている。 市主催のグループホーム連絡協議会には積極的に参加するなど、良好な関係づくりに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で身体拘束について学び、極力、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。やむを得ない場合、運営基準で定められている身体拘束に関する条件を満たしているかを判定し、経過を記録するようにしている。	身体拘束排除に向けた研修を実施しており、職員は身体拘束の具体的な行為や弊害について理解し、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 帰宅願望の強い利用者がいるため、玄関を施錠する場合もあるが、職員が見守りながら出来るだけ開錠するように努めている。 やむを得ず身体拘束を実施しなければならない場合に備え、同意書や経過観察記録等の書類を整備している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これも社内研修にて学びあい、どういことが虐待なのかを各スタッフが知り、注意を払っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な入居者に対してはそのような制度を利用している。日常生活自立支援についての知識や成年後見制度について学ぶ機会を得ているのでスタッフに知識を広めてもらえるよう研修に参加したり勉強会を開催する。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設長や看護師の説明のもと、納得したうえで入居、退去の手続きを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが、ご家族などは遠慮もあってか、あまりご意見はいただけないので、面会に来た際にこちらから現状をお話しし、（医療面については看護師から詳しく話してもらう）お茶を飲みリラックスした雰囲気の中で意見や要望を聞き出している。	管理者や職員は、日々の関わりの中で利用者の意見や要望を聴くように努めるとともに、家族等からは来訪時に意見や要望を聴き、「申し送りノート」に記載している。家族等から意見や要望を幅広く得るための、無記名のアンケートを実施するまでには至っていない。	家族等から意見や要望を汲みあげるために、無記名のアンケートを実施することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや日々の朝礼で職員の意見を聞いている。	施設長や管理者が参加する毎月の職員会議で、職員の要望や提案を聞いているほか、日頃から職員の意見等を聞くように努めている。職員の提案で利用者の生活環境に変化をつけるために席替えを行った結果、利用者間の関係がより円滑なものになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、1年間のそれぞれの勤務実績（出勤日数、勤務態度等）を把握し、勤勉なスタッフには表彰を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を毎月行なえる様に年間の研修項目を決めているが、実行出来ない月もある。法人内外の研修にも意欲的に取り組み研修の成果をあげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	常陸太田市の連絡協議会などを通じて、勉強会などに参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れるまでは、入所時に本人や家族とよくかかわりを持ち、不安なことはないか、要望等聞き出している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活歴を聞きながら本人にとって、より良い生活ができるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、施設長と看護師をまじえて話し合い、ご本人がより良いサービスが受けられるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護という観点ではなく、ともに生活するという観点で仕事をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なにか困ったことや、変化があれば、ご家族に報告、相談をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族だけでなく、友人や親戚も来訪している。家族の協力を得て帰宅したり、外食など馴染みの店へでかけられるように支援している。	入居時から交友関係や馴染みの場所等を把握しており、知人等が来訪した際にはゆっくり話ができるよう、茶菓子を出すなどして配慮している。 日用品の買い物に馴染みの商店に同行したり、利用者の要望を受けて家族等に連絡調整をし、自宅に外泊するなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの相性や、その時の状態を見ながら関わり合いを持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族と関係を大事にし、さまざまな面でつながりあえるよう心掛けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本的に利用者ひとりひとりの意向に沿った介護を行っている。各スタッフは日常の中でつぶやいたことを記録し、それを皆で共有していくように努めている。	利用者の基本情報から生活歴を把握するとともに、日々の生活の中で、表情や会話の中から一人ひとりの思いを推し測り、つぶやきなどを記録して職員で共有している。 意志疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草などから思いの把握に努め、利用者本位に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の今までの生活歴を把握するようにしている。それをふまえどのかかわりをもったらよいのかを話しあっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努め、変化があればミーティングなどで今後の関わり合いについて話し合っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が面会に来た時は必ず声掛け状況報告をしながら思いの共有、傾聴を心掛け、本人のより良い暮らしをする為の課題を管理者、スタッフで話し合い共有することからケアプランにつなげる様になっている。関わりながらのモニタリングも欠かせない。	介護計画は利用者や家族等の意向を取り入れ、支援経過記録を基に計画作成担当者と職員で話し合って作成し、家族等の来訪時などに説明して同意を得ている。 3ヶ月毎にモニタリングを行い、長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月に設定して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時モニタリングを実施し、現状に即した介護計画に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや朝の朝礼で情報を共有するよう努めている。また気づいたことや意見なども朝礼の際に確認し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化に伴い、ここでは不可能なことも出てくるため、その時はほかのサービスが受けられるよう、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然が豊かなので、散歩などに出かけたりしている。買い物はドライブを兼ねて車で行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう、入所時には今までの経緯などを考慮しながらかかりつけ医を決めている。また本人とともに病院受診に行っている家族もある。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診は、家族等の付き添いが原則となっているが、家族等が付き添えない場合には、職員が同行している。 家族等からの受診結果を「申し送りノート」に記載するとともに、電話等で家族等に受診結果を報告している。 協力医療機関への定期的な受診を行い、健康管理を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、看護師が全員の健康状態をチェックし、なおかつ介護職員が気づいたことは速やかにその日の看護師に伝えられている。そのうえで適切な医療を受けられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、主に看護師などが様子伺いに医療機関と連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の終末期に向けた施設の在り方を今作成しているところ。	事業所では看取り介護を行う方針で、契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」で緊急時対応について家族等に説明し、同意を得ているが、利用者の状態に変化が生じた場合に、その都度家族等と話し合って同意を得たり、重度化や看取り介護に関する内部研修を行うまでには至っていない。	利用者が重度化した場合には、その都度家族等と話し合って同意を得ること、重度化や看取りに関する職員研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は消防訓練の際に、講習を受けている。またウイルス性の感染症の対応なども看護師から講習を受け、万が一の事態に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えてお水や懐中電灯など備蓄している。昨年は消防団の方に来てもらい施設内をみてもらった。前々回は消防署立会いの下、前回は夜間想定での訓練を行った。また、地域との協力体制は運営推進委員会で話し合いを持っているが地域の高齢化などの問題もあり、今自治体の方と連携を取ってる。今後、より良い協力体制を築いていこうとしている。	年2回火災想定避難訓練を地元消防団の参加を得て実施し、記録を作成しているが、反省点を参加者と共有して次回の訓練に活かすまでには、至っていない。 災害に備え、飲料水等を備蓄しているが、品名や数量、賞味期限等を記載した備蓄品リストを作成し、管理するまでには至っていない。	訓練時の反省点を共有し、次回の訓練の目標に加えること、品名や数量、賞味期限等を記載した備蓄品リストを作成することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援にあたっては利用者の言動を否定せずに敬語で接するように心がけている。個人情報のファイルは事務所に保管している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者の言動を否定せずに人生の先輩と敬いながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 契約書等の個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管し、取り扱いに留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを多くし本人の意向を聞き出すように支援している。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一人一人にあったサービスを提供できるように、努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿うよう身だしなみやおしゃれに気を配っている。	/		/

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理スタッフと一緒に、食事の準備をしたりしている。また頻繁にはできないが、一緒におやつを作ったりして、出来ることをやって頂きながら、楽しんで作っている。	職員は利用者とテーブルを囲み、会話をしながら同じ食事を摂り、食事を楽しめるように支援している。 利用者の嗜好を把握し、苦手な食材の場合には代替え食を用意したり、利用者の状況に応じて刻み食等の特別食を提供している。 利用者は出来る範囲内で下膳やお盆拭き等の役割を担っている。 誕生会や行事の際には、職員の手作り和菓子やちらし寿司などを楽しんだり、外出時にはお蕎麦やうどん等の外食を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとり、一日の水分量を記録している。なかなか水分が取れない方に関しては本人が飲みやすいものだったり、工夫をしてくだしている。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員口腔ケアを実施している。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人のケース記録に排泄チェックがあるのでそれを参考にその人の排泄パターンを把握している。また、出来るだけトイレで排泄が気持ちよく出来る様、立位訓練を行い、自立に向けて取り組んでいる。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、個人のリズムに合わせてトイレ誘導を行い、できる限りトイレで排泄が出来るよう取り組んでいる。 立位訓練行っており、リハビリパンツに改善された事例があるなど、職員は利用者がより快適に過ごせるように適切な排泄支援に取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便意がちな入居者に対しては、運動をしたり、水分をとってもらったり働きかけているがそれでも効果がないときはお薬を服用し調節をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調や希望にそって週に2回程度を目標に入浴している。個々に応じてバスクリンを使用したり、最近では寒いので体が冷えないように足浴しながらのシャワーがけや重度でもなんとか湯船に入れられるよう人数を配置して支援している。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の状態に応じて、足浴や清拭等に変更するなどの対応をしている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、担当者や時間帯を変えて声かけするなど工夫して入浴を促している。 菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を使用して季節感を出すなど、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールにもベットやマッサージチェアを置き、くつろげるようにしている。またこの時期は湯たんぼやエアコンを利用しながら快適な睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更時は連絡帳に書いてお知らせするほか、口頭で関わるスタッフ申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、必ず季節行事や誕生会を行い、季節感を感じていただくようにしている。気候の良い時は、出来る限り外出支援を心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	近隣への散歩や、買い物など日常的に外 出している。またご家族にお願いし、外 出や外泊を行っている	年間行事計画を立てて、初詣や花見、紅葉 狩り、リンゴ狩りなど、季節毎に公用車で出 かけ、季節を感じられるよう支援している。 利用者の体調に配慮しながら、近隣に散歩 に出かけている。 敷地内の自家菜園では、胡瓜やトマト、 ジャガイモなどを栽培しており、利用者は野 菜の手入れをしながら、外気浴を楽しめる機 会にもなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	基本的には事務所で預かり、たてかえし ているが本人の希望によっては少額を所 持したり、事務所で預かっていることを お知らせし使いたいときに出すようにし ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	本人の希望があれば連絡を取って頂いて いる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	もともと広いホールではないのでホール はなるだけ広々と空間をとり手作りのカ レンダーや絵、季節の行事にちなんだ飾 りなど、季節感を味わえるように工夫し ている。段差のある畳があるのでそこで 休まれる入居者もいる。玄関や玄関の テーブルには季節の花を飾るなどして季 節感を出している。自然が多く空気も良 いので気候の良い日や時間帯は窓を開け て自然の風を入れるようにしている。	玄関やテーブルには花などを飾り、季節を 感じられるよう支援している。 居間兼食堂は大きな窓から光が差し込み、 温度管理がされた快適な空間となっている。 居間兼食堂の一隅にある和室は、利用者が 会話や昼寝を楽しむ憩いの場となっている。 壁面は利用者と職員で制作した貼り絵や、 手作りカレンダーなどを飾り、季節感を楽し めるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子をおいたり、ホールも2つあるので入居者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前から使っていた馴染みのものを持って来ていただくようにしている。ただ入居者によっては少し殺風景なところもあるので、少しでも家庭的な環境にちかづけるように改善していきたい。	居室にはベッドやエアコン、押し入れ、時計、カーテンが備え付けられている。 利用者は仏壇や位牌、箆笥、衣装ケース、家族の写真のほか、テレビやラジオなどの電化製品や使い慣れた寝具、椅子など馴染みの物品を持ち込んで、居心地よく暮らせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階はほとんど車イスの方に変化して来たので、ホールは広々と使い、自分のこと自分ではできるよう手すりの配置やすべり止めの設置など随時工夫している。			

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと ○ 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひだまりの家

作成日 平成28年6月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	看取り介護を始めたばかりなので、勉強会等は行ったもののスタッフ全員が関わることが難しく、看取り介護の実践が難しい。	一人一人がスタッフ全員で看取り介護を行う意識を持つ。	内部研修の充実。(一回きりではなく、定期的に話し合いを持ち課題を共有し、皆が関わられるようにする。)	6か月位
2	6	今までも家族からの要望や意見は聞いていたが、すべてのご家族が本音で意見を言えるツールがなく本当のご家族の気持ちをくみ取れていない。	ご家族が本当に思っていることを施設に伝えられる。	無記名のアンケートを実施する。(項目は施設長や社長と話し合い、考える)	6か月位
3	13	その場かぎりの訓練になりがち。前回の反省を生かした訓練をし、またあらゆる災害に備えておく必要がある。	前回の反省をいかした訓練ができるようになる。またあらゆる災害に備え、備蓄品をそろえ、管理ができる。	前回の反省を全員で共有し、次回の訓練にいかす。品名や数量、賞味期限等を記載した備蓄品リストを作る。	3か月 ～ 5か月位
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。